

## 6. 公共健康医学専攻

II	分析項目ごとの水準の判断	・・・	6 - 2
	分析項目 V	進路・就職の状況	・・・ 6 - 2

## II 分析項目ごとの水準の判断

### 分析項目V 進路・就職の状況

#### (1) 観点ごとの分析

##### 観点 関係者からの評価

(観点に係る状況)

医学系研究科公共健康医学専攻は2007年度に設置されたため、修了者の進路について十分な資料が蓄積されていない段階である。しかし、公衆衛生専門家養成に対する社会的要請は強く、本専攻において最先端かつ広範な公衆衛生領域の教育を体系的に履修することにより、修了者の多くが公衆衛生分野の高度専門職業人として活躍することが十分期待される。

本専攻への出願者数は、4年続けて入学定員(30名)を大幅に上回っており、このことは、入学希望者の評価や本専攻への期待の高さを裏付けている(表6-1)。

また、修了者に対して実施したアンケート調査結果では、「今後のキャリアにあたって基礎となる手段・技術・能力」、「公衆衛生学全般に関する幅広い基礎知識」、「新しいことを積極的に学ぶ力」、「仲間と一緒に勉強したり研究したりする協調性」などの項目で高い評価を得ている。加えて、8割を超える回答者が、もう一度入学前の状態に戻った場合、本専攻を第1希望で志望すると回答し、具体的な理由として「SPH(公衆衛生大学院)での知識は幅広く、有用だったことに加え、様々なキャリア・バックグラウンドのメンバーと一緒に学ぶことが有意義だった」ことを挙げている(別添資料6-1)。

さらに、本専攻の修了者が執筆した論文(別添資料6-2)では、本専攻のカリキュラム、授業内容や、標準修業年限1年及び2年のコースを設けるなどの制度設計の側面において、本専攻の特長やその有用性が示されている。本論文は若手臨床医向けの雑誌に取り上げられたものであり、公衆衛生大学院に対する医療関係者等の関心の高さが窺える。

表6-1：公共健康医学専攻の出願者数と合格者数

年度	出願者数	合格者数(2年コース、1年コース)	
2007*	85	37	(27、10)
2008	85	30	(22、8)
2009	100	30	(19、11)
2010	93	31	(19、12)

\*2007年度の実績は、健康科学・看護学専攻入試(健康科学)合格者(2006年8月実施)からの移籍分と2007年2月に実施された本専攻入試の合格者の合計である。

#### (2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準) 期待される水準を上回る。

(判断理由)

本専攻では、2009年度までに、標準修業年限1年コースの学生29名(3年度分)、標準修業年限2年コースの学生46名(2年度分)に対して、公衆衛生学修士(専門職)を授与した。進路を把握できた65名のうち、41名が想定された分野(医療機関17名、厚生労働省・自治体・国連機関8名、NGO・シンクタンク・企業6名、大学・研究所10名)に就職、24名は社会医学・健康科学系の大学院等(博士課程、研究生)に進学しており、関係者の期待に十分に答えている。

本専攻の出願者数に示されるように入学希望者の関心は高い。また、修了者のアンケート調査結果から、意図した教育の成果や効果をあげていると判断できる。さらに、本専攻の修了者が執筆した公衆衛生学修士課程の有用性に関する論文が、若手臨床医向けの雑誌に取り上げられるなど、医療関係者等の関心を集めたことも特筆できる。